

河口堰の四季

天然ウナギと言え、利根川産

天然ウナギと言え、利根川産と言われるくらい利根川産の天然ウナギは有名です。なかでも、

秋、産卵のため海にでようとして利根川を下ってくるウナギ、すなわち「下りのウナギ」は栄養を蓄えて丸々としていることもあって、ウナギ好きには感えられません。地元小見川町の漁師は、この下りウナギを熊手のような「うなぎかき」を船で引いてひっかけたり、竹筒

網漁で捕まえます。ウナギの産卵場所はワイリピン沖という説が有力ですが、良く判っていません。10月から6月にかけて、今度はウナギの稚魚であるシラスウナギが遡上してきます。シラスウナギは、昼間は河口、沿岸の底土に隠れていて、夜間になると浮上して川を遡上していきます。現在、河口堰では魚道における魚道の遡上調査を行っています。シラスウナギが多数確認されています。この透明で可憐なシラスウナギをみていると、自然の営みの偉大さをヒシヒシと感じます。



平成14年12月 右岸魚道における遡上調査時に撮影されたシラスウナギ

ポスターの掲示

10月1日から独立行政法人水資源機構がスタンプしました。広報活動の一環として、小見川町役場、東庄町役場、波崎町役場、利根川下流河川事務所小見川出張所、幾ヶ浦河川事務所波崎出張所にて、機構ポスターを掲示させて頂いています。是非、ご覧下さい。



機構ポスター（小見川町役場内）

編集後記

長年、慣れ親しんだ公団から独立行政法人水資源機構へ移行してから早1ヵ月。取材に行くと、まだまだ知名度の低さを実感させられ、外部に情報を発信していく大切さを感じさせています。この広報誌が地域の方との距離を近いものにするきっかけになってくれればと願っています。（編集担当者）

この広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、施設見学も受け付けています。見学担当、総務グループ 松本(まつもと)、井藤(いふじ)までご連絡ください。〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宮227-6番地 水資源機構 利根川河口堰管理所 TEL0478-86-0477 FAX0478-86-3457 E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

地域を守る潮止め堰

河口堰だより

新任のご挨拶

10月1日付けの異動で、横田前所長の後任として利根川河口堰管理所長に就任いたしました。泉田武宏です。平素から利根川河口堰管理事業につきましても、格別のご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

この度、組織も水資源開発公団から独立行政法人「水資源機構」に生まれ変わりました。水資源機構は「安全で良質な水を安定して安くお届けする」を経営理念としています。利根川河口堰管理所は利水者や地域住民との連携を深めるとともに、効率的な業務執行を行ってまいります。そして、コスト意識をもとに、安全で確実な施設管理を行うことを業務方針としまして、利水者（水道事業者）

発行所 独立行政法人水資源機構 利根川河口堰事務所 TEL 0478-86-0477



所長 泉田武宏

の方々との情報交換会を定期的に開催し、お互いに勉強をさせていただきます。さらに、地域との交流をより促進するため、地元小学生との学習会等のイベントを開催するとともに、地域の行事及び清掃活動等に積極的に参加し、「地域を守る潮止め堰 利根川河口堰」として水を活かし、守り、地域の生活にさらに一層の貢献ができますよう職員一同取り組んでまいります。この広報誌が地元の皆様により親しまれ、河口堰がより身近な施設となることを願っています。

工事のお知らせ



利根川河口堰では昭和46年4月からの管理開始後、すでに32年が経過して、施設の老朽化が進行しており、重大事故が発生しないよう予保全の観点から、施設の整備を鋭意進めているところです。平成14、15年度は片側通行にて工事しました。

平成16年度は南側門9号のゲート閉鎖装置に付随するドラムギヤ(歯車)の整備を予定しています。ドラムギヤは、上段扉用と下段扉用の2つあり、直径がいずれも約2mとサイズが大きく、重量も4,2tと4,4tとい



平成15年2月 ドラムギヤ整備作業状況



平成16年11月 水門設備整備作業状況



ご意見をお寄せいたします。

うようにかなり重いことから、操作室からドラムギヤを搬出・搬入する際には安全対策上からも利根川大橋を全面通行止せざるをえません。利根川大橋は、鹿島臨海工業地帯等への通勤、物資の搬入・搬出のために1日おおよそ6000台の車両が行き来する重要な橋であることから、全面交通止めする期間は搬出・搬入ともそれぞれ最小限の1日未満とすることと検討を進めています。また、本工事に伴う交通規制に関する情報につきましては今後速やかに提供していく所存ですので、ご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

利根川下流沿川紀行

銚子の醤油

本州の東端で利根川の河口に位置する銚子は、古くから紀州地方（和歌山県）との縁が深く、黒潮と親潮がぶつかる銚子沖が格好の漁場というところで、江戸時代に紀州地方から黒潮にのって銚子に多くの人たちが移住してきた歴史があります。醤油醸造をはじめとする銚子の産業の基礎を築いたのも、この紀州地方（和歌山県）から移住してきた人たちです。

銚子は、夏と冬の気温差が少なく、かつ、利根川の湿地帯が広がっていたこともあって、湿度も醤油菌の生育に適していました。その上、利根川の下流に位置しているという点で舟運の便が良く、関東平野とされる小栗、大豆、千葉県行徳付近で作られていた藁などの原材料を船で銚子に運び込み、出末上がった醤油を船で江戸に送り出すことで、江戸末期には、関西の下り醤油の上をゆく「京上醤油」として全国一の産地となりました。

醤油やヤマザシ醤油、朝のNHK連続ドラマ「滝づくし」の舞台となった入正醤油など、いずれも銚子ゆかりの醤油です。



紀国人移住碑（妙福寺境内）



（利根川愛好会会長） 林 敏夫

銚子市内の商店街には、今も、紀伊国屋、広屋など紀州ゆかりの地名の看板が目につき、樹齢750年を越えると言われる「臥龍の藤」で有名な妙福寺境内には「紀国人移住碑」の石碑が建立されています。

利根川河口堰魚道改良態 該会が開催されました

利根川河口堰の魚道は昭和46年当時、魚道に関する知見を集約した最光端のものとして建設されました。しかし、管理開始から既に32年を経過し、近年の河川環境保全の取組み、魚道技術の進歩から、現魚道の機能向上を図る必要性を感じていました。

そこで、利根川河口部における望ましい魚道整備のあり方について、半

蔵者、河川管理者、水産行政及び水産関係者による意見交換を行い、魚道改良の基本構想をまとめることを目的として、第1回利根川河口堰魚道改良懇談会が9月17日に利根川河口堰管理所において開催されました。

この初会合では、現魚道の問題点や課題等について様々な意見が交され、テレビや新聞などでも大きく取り上げられました。



改良が検討されている利根川河口堰の魚道



平成15年9月 第一回記者発表風景

イベント案内



黒部川の清掃活動に参加しました

東庄ライオンズクラブでは、世界ライオンズデーに因んで環境美化作業として、毎年、黒部川並びに柗沼川流域の河川清掃奉仕作業を実施しています。

今年10月19日（日）に国土交通省、千葉県、東庄町、柗川漁業組合、受約会、利根川河口堰管理所などの有志が集まって、黒部川並びに柗沼川の堤防或いは水辺に投棄された空き缶、ビニール、腐材等の除去作業を行いました。

東総広域水道企業団でも、水道水源の水質保全と地域住民の水源水質保全に対する啓蒙を図り、より良質な水道水を確保しようとする目的で黒部川流域の清掃活動を年2回実施しています。

今年6月5日（木）



東庄ライオンズクラブとの黒部川清掃ボランティアの様子



東総広域水道企業団との黒部川清掃活動の様子

と11月4日（火）に旭市、千歳町、東庄町、海上町、坂田町、東総広域水道企業団、水資源機構千葉用水総合事業所、利根川河口堰管理所の職員約10名が集まって黒部川の堤防に投棄されたゴミを不燃物と可燃物及びペットボトルに分別収集しました。

その収集されたゴミの山を目の前にして、その量の多さにびっくりしました。

皆さん、大勢の人がウォーキングや釣り、サイクリングを楽しんでいる黒部川の水環境を守るため、黒部川をきれいにしましょう。